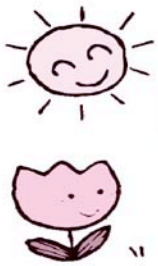


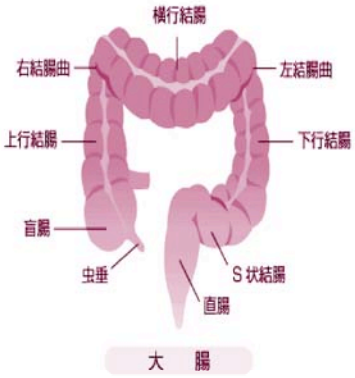
健康コラム

～シリーズ第2回目は、『大腸の病気』についてお話しします～

大腸がんを始めとして、大腸の病気が増えています

大腸の役割は、小腸で吸収されなかった水分を吸収し、不要なものを固形状の便として肛門から排泄することです。大腸は盲腸から始まって、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸、直腸、肛門へと続きます。

大腸の病気には、様々な種類があり、重症度もそれぞれ異なります。最近では、大腸がんの患者も急増し、炎症性疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病など)も増えています。



大腸の病気

○潰瘍性大腸炎
～大腸の粘膜に炎症が起こる慢性の病気です～

症状(何日も続く血便や粘血便・頻回の下痢、腹痛、発熱)が激しく現れたり、治まったりといった状態を繰り返す傾向があります。

○痔疾患
～大きく分けて痔疾患には痔核(いぼ痔)・裂肛(切れ痔)・痔瘻の3種類あります～

症状は排便時の痛み、肛門からの出血(鮮血のことが多い)

＊痔は出血や血便がその特徴ですが、大腸がんも同じような症状があります。そのため、痔だと思い込んでしまう方もいます。自己判断ではなく、医師に相談しましょう。

○大腸がん
～欧米化した食生活に伴い大腸がんは増えつつあります～

厚生労働省が行っている「人口動態統計」によると、がんは日本人の死因の1位となっています。がんによる死亡率(人口10万人に対して)を臓器別に見ると、大腸がんは、肺がん、胃がんに次いで3位となっています。男女別にみると、男性は肺、女性は大腸が最も多いがんの死因となっています。

大腸がんは、その罹患率も死亡率も増加傾向にあります。これらの割合を年齢別にみると、男女ともに50歳代から増加し始め、年齢が高くなるにつれて右肩上がりに増加する傾向があります。

初期は、無症状のことが多く、進行すると血便・便通異常(便秘・下痢・便が細くなる等)が現れます。その他の症状として腹痛・腹部膨満感・腹部のしこり・貧血などが出てくることがあります。

大腸検診のお知らせ

大腸がんは、早期発見・早期治療をすれば完治する確率の高い病気です。早期発見のためにも、大腸検診を受けるようにしましょう。

町では、平成21年度の大腸検診(便潜血反応検査)を平成21年5月11日・12日の2日間で行います。

指定された容器に1日1本連続2日間採便し、容器を保健センターに提出して下さい。

昨年受診された方、住民検診調査書で町での受診を希望された方には、指定容器・受診票をお送りいたします。今年度受診されなかった方で希望される方は一宮町保健センターまでご連絡下さい。

《お問い合わせ先》
一宮町保健センター
福祉健康課　健康グループ
☎40－1055